

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	青年の家管理運営事業						担当部	教育委員会事務局			
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生涯学習課			
	事業期間	平成22年度			～	平成30年度以降			担当係	青少年育成係		
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		3 健全な青少年を地域で育てる					
		副目的										
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	2	中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市青年の家等の設置及び管理に関する条例										
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	5 %		委託	95 %		助成	0 %			
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	市民が利用しやすいよう施設整備の管理をするとともに、青少年の仲間づくりを通じて、友愛の精神を涵養したり、ボランティア活動に目を向けることを目指して、より多くの青少年の参画を図る。										
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理とともに、青少年の講座を指定管理とした。 ・気持ちよく宿泊してもらうよう、22～24年度から掛布団と敷布団を3年に分け買い替える。 ・施設を利用しやすくするため、青少年団体や青少年育成団体等、目的にあった団体に料金の減免登録を実施した。 ・不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。 ・自分力アップ講座として、青年講座を4講座実施した。(フラダンス、アウトドアクッキング等) ・親子、小中学生講座を7講座実施した。(ゆかた着付け、囲碁、ビーズアクセサリ等) ・青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供し、青少年の交流を深めるとともに、青年の家事業のPRをするため、「青年の家フェスティバル」を開催した。(11団体: 来場者約300人) ・小牧山で開催される「桜まつり」、「市民まつり」において、同好会に働きかけ、青年の家で自主的な講座や展示発表を実施してもらった。 <p>【直接経費の内訳】 管理運営委託料 24,939,973円、耐震診断委託料 735,000円、負担金等 145,125円</p> <p>◎24年度実施内容 23年度と同様に実施する。</p>										
受益者負担	参加者の保険料											

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	0	24,430	26,823	26,304	
		正職員	従事者数	人	0.00	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	0	1,063	1,063	1,063
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	0	25,493	27,886	27,367
	対前年比		%		#DIV/0!	109.3	98.1	
財源	一般財源		千円	0	24,504	26,720	26,342	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	0	989	1,166	1,025	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	開館日数	日	目標		308	307	308
実績				308	307	310	
講座開催回数	回	目標		39	40	50	40
		実績		39	38	39	
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	青年の家利用件数	件	目標		—	—	—
実績				3,800	4,252	4,421	
講座参加者数	人	目標		149	260	—	—
		実績		131	262	466	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	講座開催回数は39講座であったため目標達成は出来なかったが、参加人数は昨年度より約5割増加し、利用人数も増加していることから、概ね目標は達成できた。
		事業実施における課題等	青年を対象とした講座は、参加者数が減少しているため、小学生とその保護者を対象とした親子講座へ講座の対象者の中心が移行してきている。
		事業を縮小・廃止したときの影響	宿泊が可能ため共同生活を伴う青少年の仲間作りや、自主的な活動の場を提供することが出来なくなる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	青少年を対象とした講座の開催や、サークル活動の拠点としてのみでなく、育成した団体が、青少年を育成することで成果の還元を行う、学びの連鎖を体現する施設としての機能を有しているため、現状維持とした。	
	改善案等	小牧山の自然を有効に活用できる立地条件を活かした親子講座の開催など、新たな対象者を獲得し、青年の家の活性化を図る。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。